

# 川越市立地適正化計画見直し説明会 地区別の災害リスク

霞ヶ関地区・霞ヶ関北地区・  
川鶴地区・名細地区

# 地区別の災害リスク(霞ヶ関地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]

<霞ヶ関地区全体の特徴・リスク>

**都市機能誘導区域・居住誘導区域**

- ・ 地区中央のJR川越線の的場駅～笠幡駅沿線を中心に居住誘導区域が設定されている。

**洪水(浸水)**

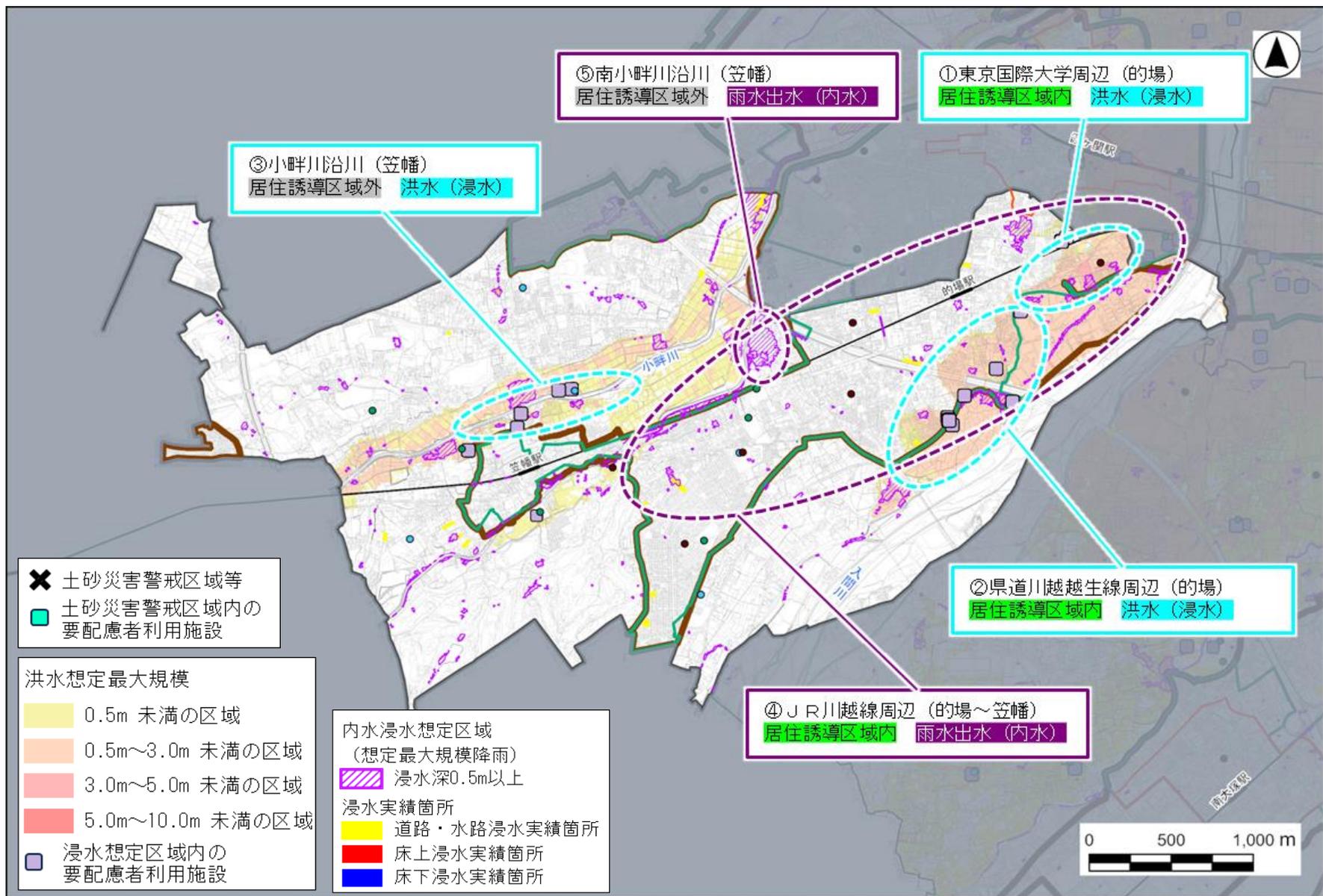
- ・ 地区東部の入間川沿いと地区西部の小畔川沿いに洪水浸水想定区域が広がっており、一部に床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)が存在する。また、エリアの一部に要配慮者利用施設が立地している。

**雨水出水(内水)**

- ・ 床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)が点在しており、家屋が立地しているエリアも存在する。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
①東京国際大学周辺(的場) <b>居住誘導区域内</b> <b>洪水(浸水)</b>	浸水深0.5m以上のエリア内に家屋が多く立地しており、一部に高齢者人口が比較的多いエリアも存在する。洪水による床上浸水のリスクがあり、垂直避難が困難な家屋もある。
②県道川越越生線周辺(的場) <b>居住誘導区域内</b> <b>洪水(浸水)</b>	浸水深0.5m以上のエリア内に家屋が多く立地している。洪水による床上浸水のリスクがあり、垂直避難が困難な家屋もある。
③小畔川沿川(笠幡) <b>居住誘導区域外</b> <b>洪水(浸水)</b>	浸水深0.5m以上のエリア内に家屋が立地している。洪水による床上浸水のリスクがあり、垂直避難が困難な家屋もある。
④JR川越線周辺(的場～笠幡) <b>居住誘導区域内</b> <b>雨水出水(内水)</b>	浸水深0.5m以上のエリアが点在しており、家屋が立地しているエリアもあるため、内水氾濫による床上浸水のリスクがある。
⑤小畔川沿川(笠幡) <b>居住誘導区域外</b> <b>雨水出水(内水)</b>	浸水深0.5m以上のエリア内に家屋が立地しており、内水氾濫による床上浸水のリスクがある。

# 地区別の災害リスク(霞ヶ関地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]



- 地区境界
- 都市機能誘導区域
- 避難所等
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 避難所
- 避難場所
- 福祉避難所

# 地区別の災害リスク(霞ヶ関地区) [ミクロ分析:洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]

<霞ヶ関地区全体の特徴・リスク>

**家屋倒壊等氾濫想定区域**

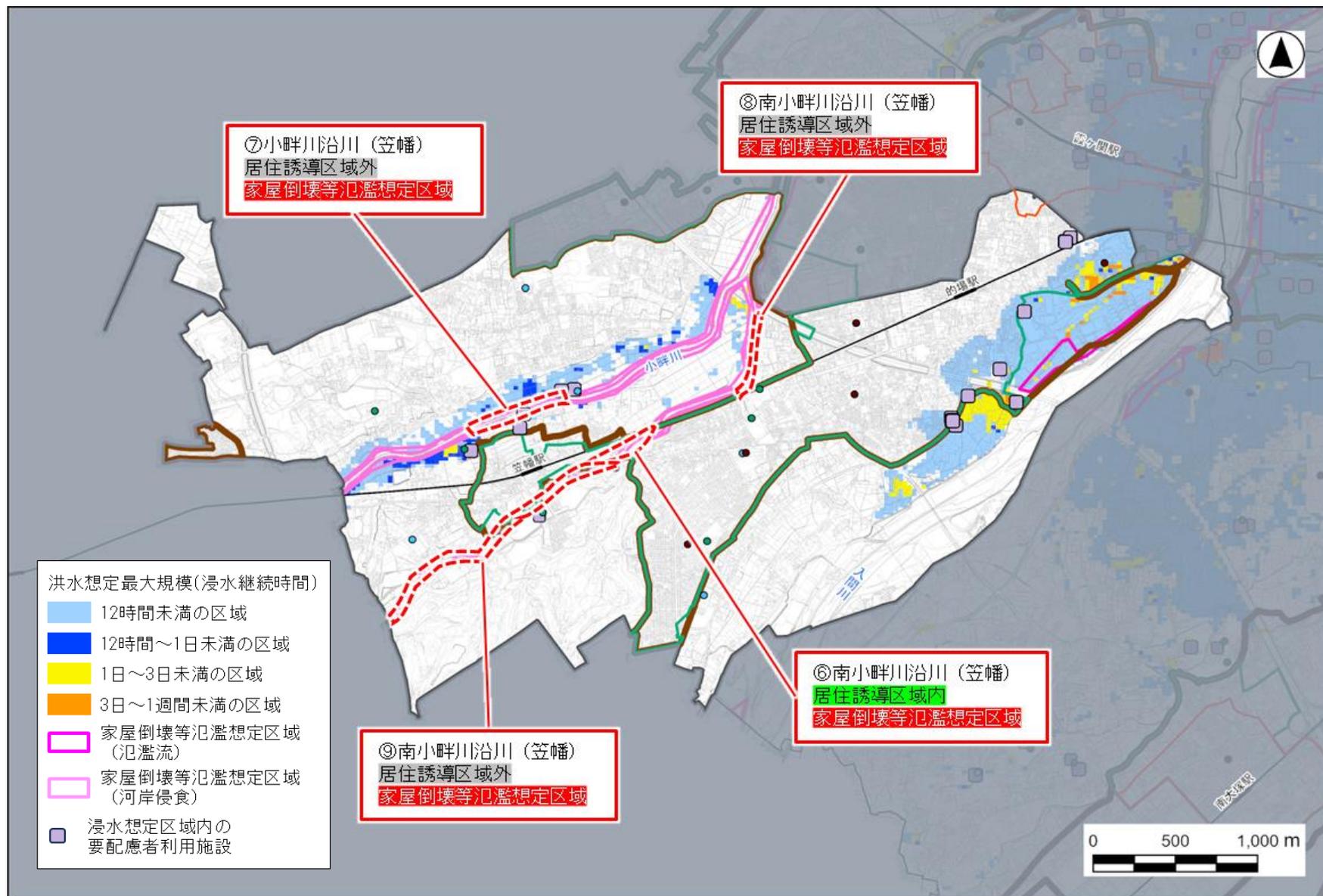
- ・ 小畔川、南小畔川の沿川に家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）が存在しており、当該エリアの一部は居住誘導区域となっている。

**洪水（浸水継続時間）**

- ・ 地区内には浸水継続時間が3日以上となるエリアは存在しない。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
⑥南小畔川沿川（笠幡） <b>居住誘導区域内</b> <b>家屋倒壊等氾濫想定区域</b>	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）内に家屋が立地しており、洪水時に家屋が倒壊・流失するおそれがある。
⑦小畔川沿川（笠幡） ⑧⑨南小畔川沿川（笠幡） <b>居住誘導区域外</b> <b>家屋倒壊等氾濫想定区域</b>	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）内に家屋が立地しており、洪水時に家屋が倒壊・流失するおそれがある。

# 地区別の災害リスク(霞ヶ関地区) [ミクロ分析:洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]



# 地区別の災害リスク(霞ヶ関北地区) [ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]

<霞ヶ関北地区全体の特徴・リスク>

## 都市機能誘導区域・居住誘導区域

- ・ 地区東部、南西部の一部を除き地区の大半が居住誘導区域となっており、霞ヶ関駅南側には都市機能誘導区域が設定されている。

## 洪水(浸水)

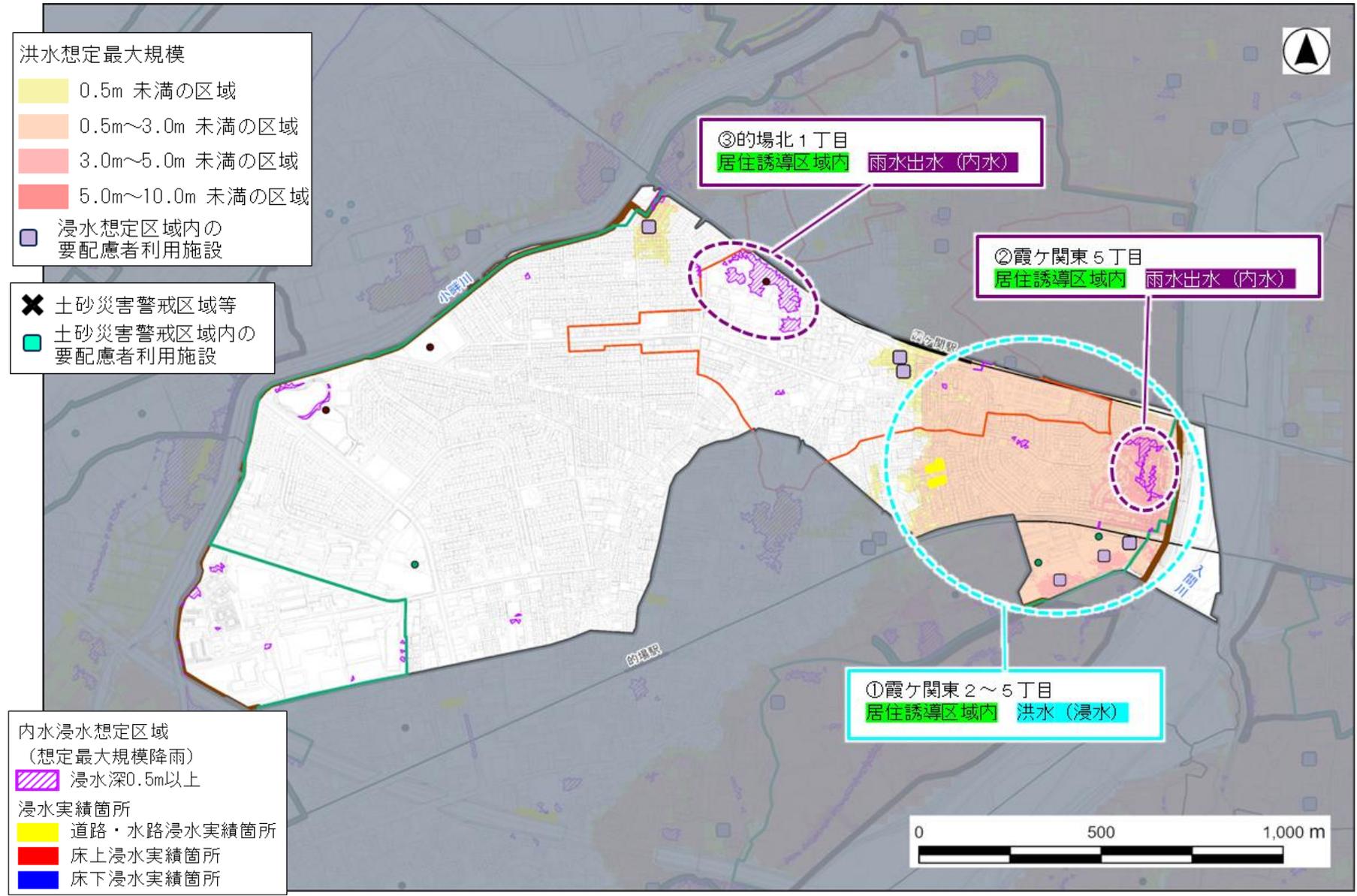
- ・ 地区東部の入間川沿いに洪水浸水想定区域が広がっており、床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)が大半を占めている。エリアの一部に要配慮者利用施設が立地している。

## 雨水出水(内水)

- ・ 地区東部や北部などの一部に床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)が存在している。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
①霞ヶ関東2～5丁目 居住誘導区域内 洪水(浸水)	浸水深0.5m以上のエリア内に市街地が形成されており、人口、高齢者人口ともに比較的多い地区となっている。洪水による床上浸水のリスクがあり、垂直避難が困難な家屋が多い。
②霞ヶ関東5丁目 ③的場北1丁目 居住誘導区域内 雨水出水(内水)	浸水深0.5m以上のエリア内に家屋が多く立地しており、内水氾濫による床上浸水のリスクがある。

# 地区別の災害リスク(霞ヶ関北地区) [ミクロ分析: 洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]



# 地区別の災害リスク(霞ヶ関北地区) [ミクロ分析:洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]

＜霞ヶ関北地区全体の特徴・リスク＞

**家屋倒壊等氾濫想定区域**

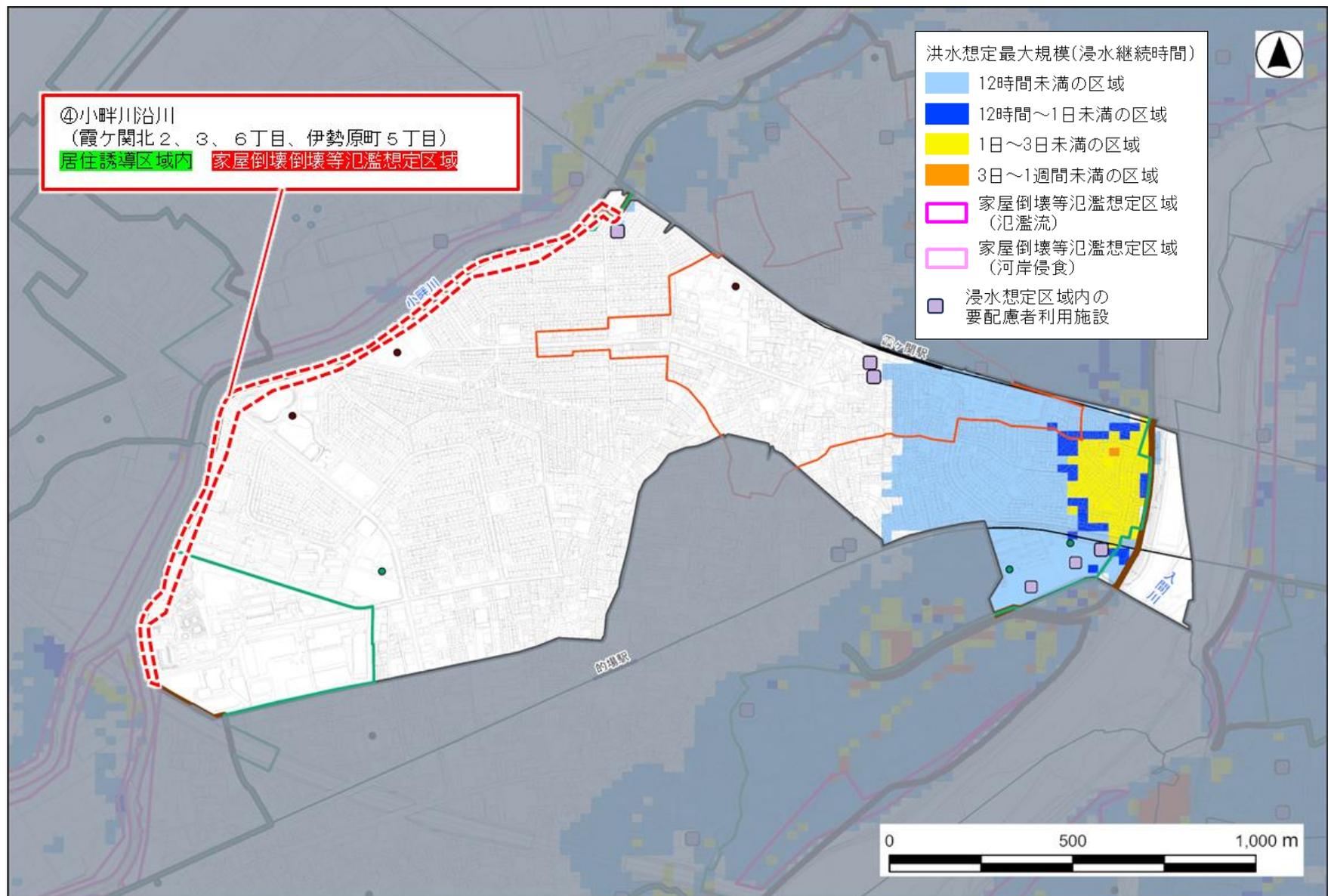
- 地区西部の小畔川の沿川に家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）が存在しており、当該エリアは大半が居住誘導区域となっている。

**洪水（浸水継続時間）**

- 地区内には浸水継続時間が3日以上となるエリアは存在しない。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
④小畔川沿川（霞ヶ関北2、3、6丁目、伊勢原町5丁目） <b>居住誘導区域内</b> <b>家屋倒壊等氾濫想定区域</b>	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）内に家屋が多く立地しており、洪水時に家屋が倒壊・流失するおそれがある。

# 地区別の災害リスク(霞ヶ関北地区) [ミクロ分析:洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]



- 地区境界
- 都市機能誘導区域
- 避難所等
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 避難所
- 避難場所
- 福祉避難所

# 地区別の災害リスク(川鶴地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]

<川鶴地区全体の特徴・リスク>

**都市機能誘導区域・居住誘導区域**

- 地区東部の一部を除き地区の大半が居住誘導区域となっている。

**洪水(浸水)**

- 地区内に洪水浸水想定区域は存在していない。

**雨水出水(内水)**

- 地区中央部や東部の一部に床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)が存在している。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
①川鶴2丁目 <b>居住誘導区域内</b> <b>雨水出水(内水)</b>	浸水深0.5m以上のエリアのうち笠幡公園を除く道路沿いのエリア内に家屋が立地しているため、内水氾濫による床上浸水のリスクがある。
②吉田新町2丁目 <b>居住誘導区域内</b> <b>雨水出水(内水)</b>	浸水深0.5m以上のエリア内に家屋が立地しているため、内水氾濫による床上浸水のリスクがある。

# 地区別の災害リスク(川鶴地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]



洪水想定最大規模

- 0.5m 未満の区域
- 0.5m~3.0m 未満の区域
- 3.0m~5.0m 未満の区域
- 5.0m~10.0m 未満の区域
- 浸水想定区域内の要配慮者利用施設

内水浸水想定区域  
(想定最大規模降雨)

- 浸水深0.5m以上

浸水実績箇所

- 道路・水路浸水実績箇所
- 床上浸水実績箇所
- 床下浸水実績箇所

- 土砂災害警戒区域等
- 土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設

①川鶴2丁目  
居住誘導区域内 雨水出水(内水)

②吉田新町2丁目  
居住誘導区域内 雨水出水(内水)



- 地区境界
- 都市機能誘導区域
- 避難所等
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 避難所
- 避難場所
- 福祉避難所

# 地区別の災害リスク(川鶴地区) [ミクロ分析: 洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]

<川鶴地区全体の特徴・リスク>

## 家屋倒壊等氾濫想定区域

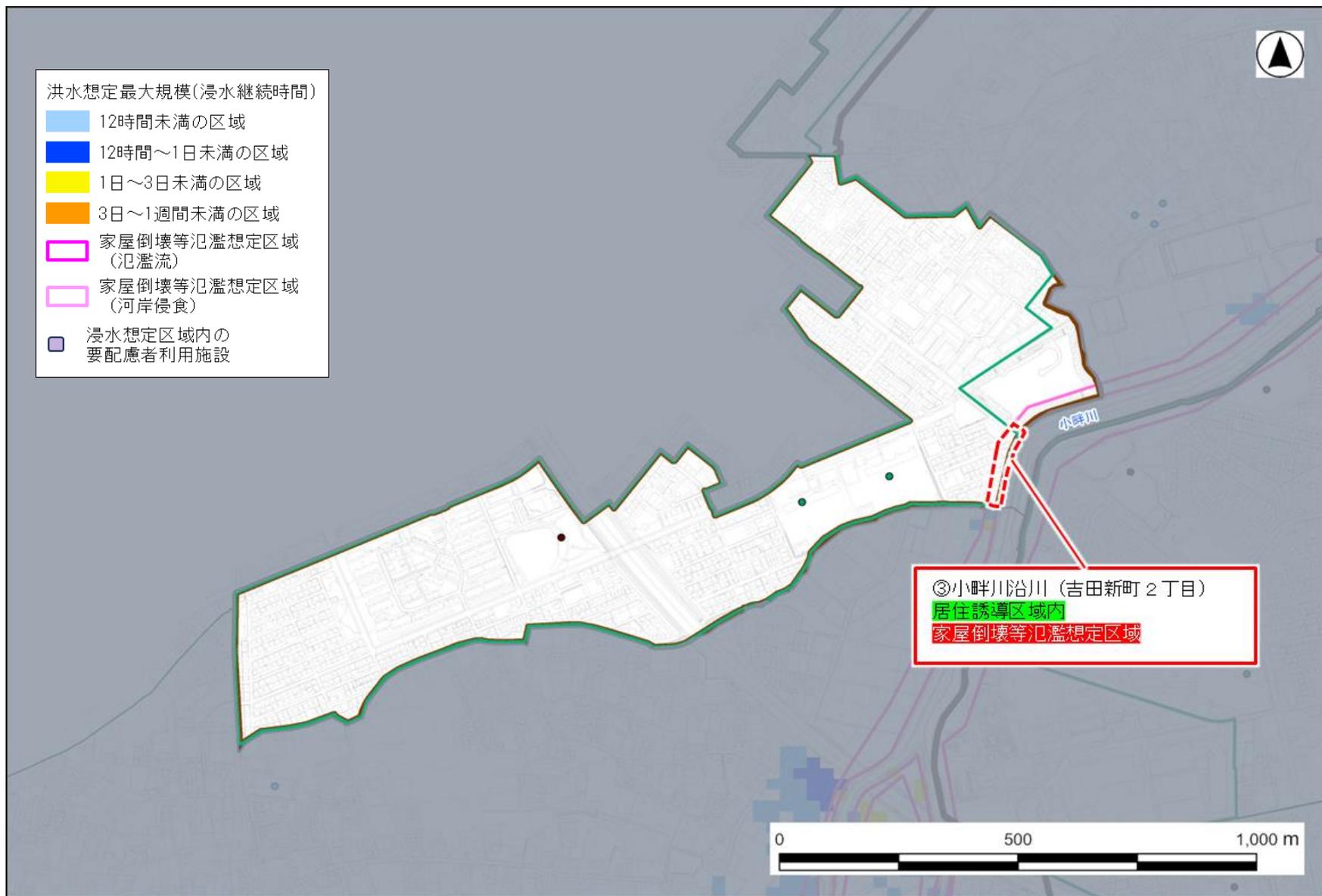
- 地区東部の小畔川の沿川に家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）が存在しており、当該エリアの一部は居住誘導区域となっている。

## 洪水（浸水継続時間）

- 地区内には浸水継続時間が3日以上となるエリアは存在しない。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
③小畔川沿川（吉田新町2丁目） 居住誘導区域内 家屋倒壊等氾濫想定区域	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）内に家屋が立地しており、洪水時に家屋が流出するおそれがある。

# 地区別の災害リスク(川鶴地区) [マイクロ分析: 洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]



- 地区境界
- 都市機能誘導区域
- 避難所等
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 避難所
- 避難場所
- 福祉避難所

# 地区別の災害リスク(名細地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]

<名細地区全体の特徴・リスク>

## 都市機能誘導区域・居住誘導区域

- ・ 地区の南部の霞ヶ関駅周辺に都市機能誘導区域が設定されており、周辺が居住誘導区域となっている。また、ファミリータウン春日や広谷新町、鶴ヶ島駅付近の市境一帯も居住誘導区域に指定されている。

## 洪水(浸水)

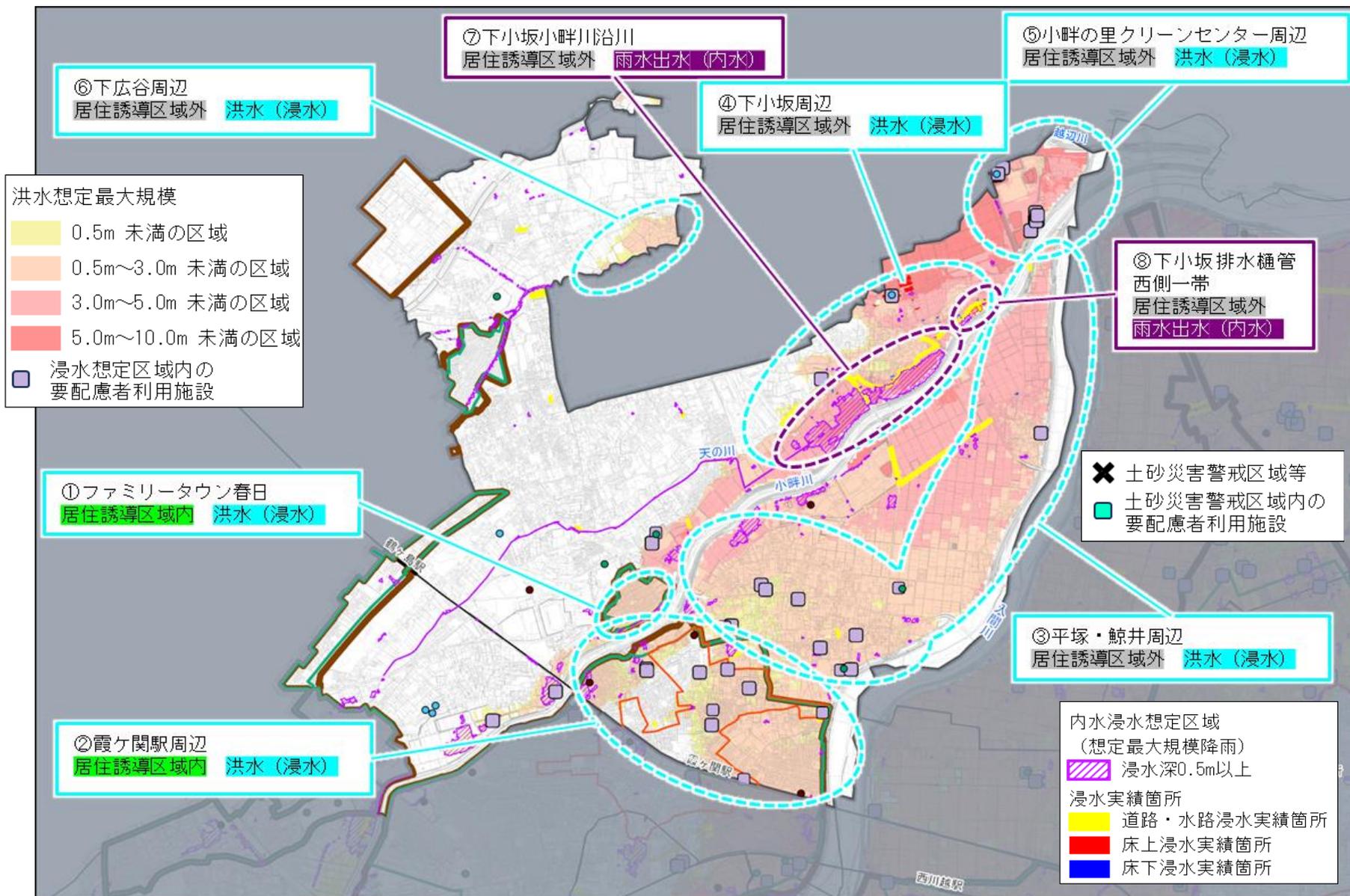
- ・ 小畔川の周辺部と入間川周辺部に浸水想定区域が広がり、霞ヶ関駅周辺およびファミリータウン春日の居住誘導区域において床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)となっている居住誘導区域外においては北東部にかけて浸水深3.0m以上の浸水が想定される。2階まで浸水がおよぶ可能性があることから低層の家屋においては垂直避難が困難となる。また、これらの地区全体にわたり要配慮者利用施設が多く立地している。

## 雨水出水(内水)

- ・ 小畔川周辺に床上浸水のリスクがあるエリア(浸水深0.5m以上)が存在する。また、地区内には道路の浸水実績がある箇所も点在している。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
①ファミリータウン春日 ②霞ヶ関駅周辺 居住誘導区域内 洪水(浸水)	市街地が形成されており、人口、高齢者人口ともに比較的多い地区となっている。洪水による床上浸水のリスク(浸水深0.5m以上)があり、垂直避難が困難な家屋が多い。
③平塚・鯨井周辺 ④下小坂周辺 居住誘導区域外 洪水(浸水)	集落等が形成されており、エリアの大半が洪水による床上浸水のリスク(浸水深0.5m以上)がある。また、北部では3.0m以上の浸水が想定され、2階まで浸水がおよぶ可能性があることから低層の家屋においては垂直避難が困難となる。
⑤小畔の里クリーンセンター周辺 居住誘導区域外 洪水(浸水)	入間川、小畔川、越辺川の合流部に位置し、3.0m以上の浸水が想定されるエリアに要配慮者利用施設が複数立地している。
⑥下広谷周辺 居住誘導区域外 洪水(浸水)	一部に洪水による床上浸水のリスク(浸水深0.5m以上)がある。
⑦下小坂小畔川沿川 居住誘導区域外 雨水出水(内水)	小畔川沿いに広い範囲で内水氾濫が想定される。当該エリアには家屋は少ないが、道路冠水などにより通行が制限される場合がある。
⑧下小坂排水樋管西側一帯 居住誘導区域外 雨水出水(内水)	過去にエリア内の多くの家屋が床上浸水した実績があり、内水氾濫による床上浸水のリスクが高いエリアである。

# 地区別の災害リスク(名細地区)[ミクロ分析:洪水浸水深・内水氾濫・土砂災害]



- 地区境界
- 都市機能誘導区域
- 避難所等
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 避難所
- 避難場所
- 福祉避難所

# 地区別の災害リスク(名細地区) [ミクロ分析:洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]

<名細地区全体の特徴・リスク>

## 家屋倒壊等氾濫想定区域

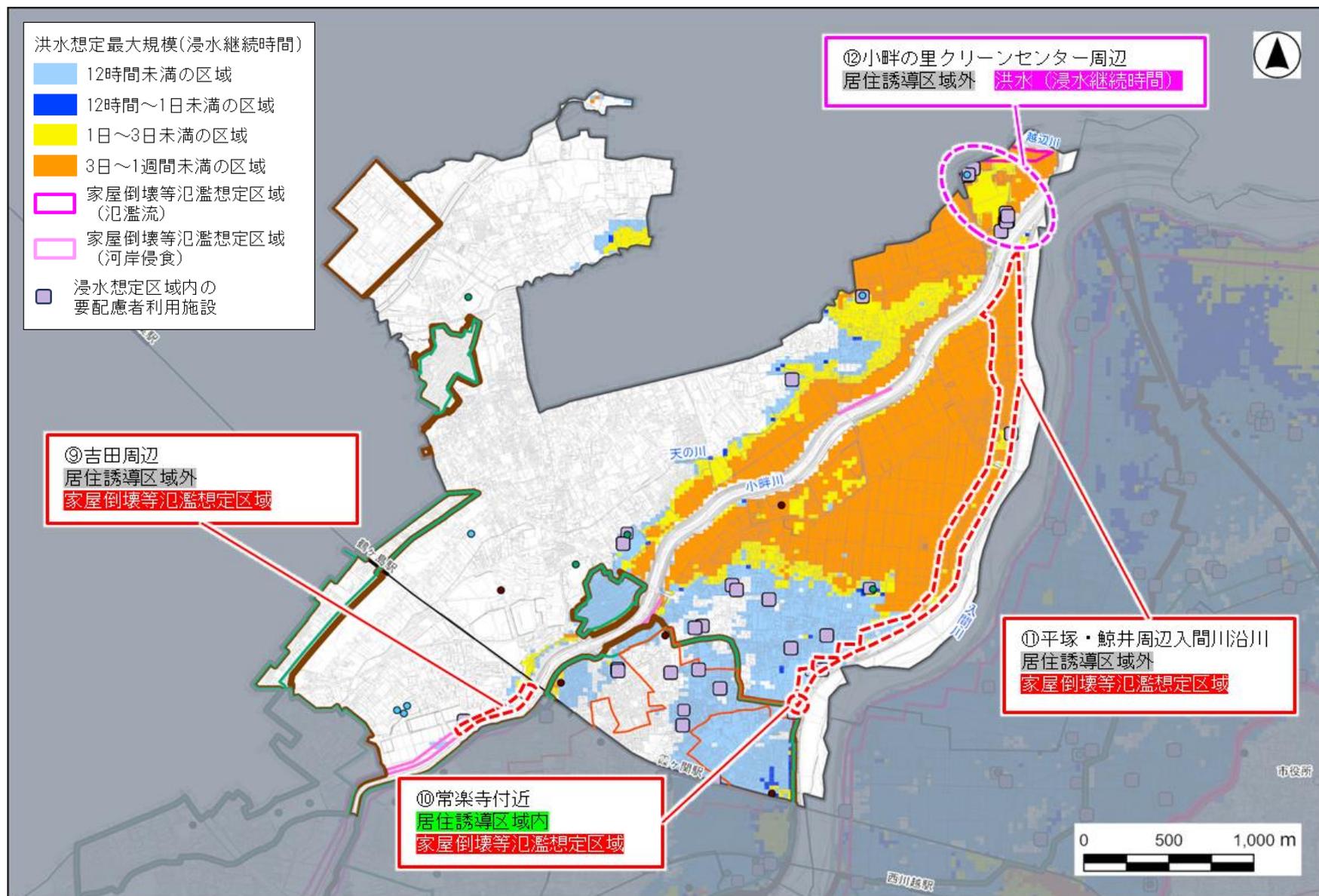
- ・ 小畔川の沿川に家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）が分布している。
- ・ 入間川の沿川に家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）が分布しており、一部居住誘導区域と重なるエリアが存在する。

## 洪水（浸水継続時間）

- ・ 小畔川の周辺部と入間川周辺部において長期にわたり浸水が継続するエリアが存在する。

特に留意すべきリスクがあるエリア名 (次のページの図中の丸番号に対応)	説明
⑨吉田周辺 居住誘導区域外 <b>家屋倒壊等氾濫想定区域</b>	集落等が形成されており、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）内に家屋が多く存在する。洪水時に家屋が倒壊・流失するおそれがある。
⑩常楽寺付近 <b>居住誘導区域内</b> <b>家屋倒壊等氾濫想定区域</b>	家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）と居住誘導区域がごく一部重なるエリアが存在する。洪水時に木造家屋が倒壊・流失するおそれがある。
⑪平塚・鯨井周辺入間川沿川 居住誘導区域外 <b>家屋倒壊等氾濫想定区域</b>	集落等が形成されており、家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）内に家屋が多く存在する。洪水時に木造家屋が倒壊・流失するおそれがある。
⑫小畔の里クリーンセンター周辺 居住誘導区域外 <b>洪水（浸水継続時間）</b>	浸水継続時間3日以上エリアとなっており、浸水が始まると屋外への避難が困難となり長期孤立するおそれがある。また、エリア内には要配慮者利用施設も立地している。

# 地区別の災害リスク(名細地区) [ミクロ分析: 洪水浸水継続時間・家屋倒壊等氾濫想定区域]



- 地区境界
- 都市機能誘導区域
- 避難所等
- 市街化区域
- 居住誘導区域
- 避難所
- 避難場所
- 福祉避難所